

日本臨床検査医学会 2019年度 第4回理事会 議事録

日時：2019年12月20日（金）15：00～18：00

場所：日本臨床検査医学会事務所

出席：矢富 裕理事長、山田俊幸副理事長、村上正巳総務理事、古川泰司会計理事、東條尚子庶務理事
バ谷直人、木村 聡、古田 耕、松尾収二、吉田 博、柴田綾子、長沢光章、下 正宗、
藤井 聡、東田修二、田中靖人、通山 薫、松永 彰 各理事
高木 康、福武勝幸 各監事（20名）

欠席：宮地勇人、大西宏明、萱場広之、小柴賢洋 各理事（4名）

会に先立ち、矢富裕理事長から挨拶があり、2019年11月28日に逝去された名誉会員の丹羽正治先生(元東海大学教授 享年101歳)の黙祷がなされ、議事を進めた。

I 報告事項

1. 支部報告

各支部報告の2019～2020年度の支部例会・総会・地方会の開催および活動報告、予定等について報告された。

2. 各種委員会報告

1) 学術推進化委員会（吉田 博 担当理事）

2019年度学術推進プロジェクト課題について、18件の応募があり3課題を採択したこと、2019年度学術推進プロジェクト採択課題の一つが、学会賞：若手研究者奨励賞も受賞し重複したことについて、同時に応募される場合、現状では防ぐことができないため、委員会間ですり合わせをすることが必要と思われること、次期委員長について、萱場広之教授（弘前大）を委員会から常任理事会に推薦したことが報告された。

2) 教育委員会（山田俊幸 担当理事）

第66回学術集会委員会企画で、RCPC1、2（それぞれ臨床検査領域講習1単位）、Catch Up セミナー（臨床検査領域講習3単位（各1単位））を開催したこと、e-learningとして、第66回学術集会での、RCPC1、RCPC2、Catch up セミナー、シンポジウム2つ、ワークショップ『臨床検査専門医の育成を考える』を選定して進めたこと、そして、e-learning（常設）として、学術集会の講演記録だけでなく、常時勉強できるようなラインナップを準備し、若い専攻医の学習ツール（ポイント制に用いる）、学会員の学習に使える教材を検討していること、医学教育学会（2020年7月17・18日：鹿児島）の公募ワークショップに、テーマ：血算、生化学検査の系統的解釈法を教育する -Reversed Clinico-pathological conference を用いて-を応募したことが報告された。

臨床検査専門研修カリキュラムについて、1) 医療法等改正との整合性、2) 検体検査分類改正との整合性、3) ゲノム医療との整合性、4) 輸血検査との整合性、5) 試験委員会との連携など、研修カリキュラムの継続的改善を検討する部門の立ち上げ（例：研修カリキュラム検討部門）が将来的に必要と思われるため、実際に必要の際に立ち上げることとなったことが報告された。

3) 臨床検査点数委員会（古川泰司 委員長）

次期診療報酬改定への提案25件を作成したこと、日本医師会疑義解釈委員会での体外診断薬の供給停止品目について代替え試薬が残1品目となった時点で警告を発すること、検査の精度保証に関する法令改正を受けて臨床検査室現診療報酬での検体検査管理加算に対して、学会の意見として、必要な人員、行うべき活動、特に医療法と保険診療上の優遇のある臨床研究中核病院、特定機能病院、地域医療支援病院について、臨床検査専門医の常勤を要件、または、努力義務とするよう提案することを臨床検査のガイドライン2021で言及するようガイドライン作成委員会に申し入れることが報告された。

4) 標準化委員会（古田 耕 担当理事）

TSH値の標準化について、IFCC C-STFT Phase IV studyの妥当性を検証し、さらに日本人基準範囲(RI)を求め、日本人成人(20～60歳)のRIはAPTM-10の2.5%タイル下限と97.5%タイル上限とし0.61～4.23mIU/Lとするが、この値は米国人RIの0.56～4.27mIU/Lとほぼ一致した。この結果を、各学会のHPにて公表し、2021年3月末日までに、IFCC基準適合検査値(Phase IV)補正方法の各キットへの適用を各メーカーに求めることが報告された。

5) 精度管理委員会（東條尚子 庶務理事）

CAP サーベイの 2019 年度進捗状況、2020 年度参加状況、臨床検査室グローバルニュース 2019 年度秋号発刊(10 月 25 日)が報告された。

6) EBLM 委員会（東條尚子 庶務理事）

第 66 回学術集会において、EBLM 委員会共催企画セミナーとして「大規模検査データの活用に必要な情報処理技術」を開催したこと、2020 年度の第 67 回学術集会における EBLM セミナーの企画は学術集会のテーマ「人工知能時代の臨床検査」に合わせた内容とし今後審議すること、プロジェクト研究として施設間の正確度の違いについて、日常診療から得られた全データの分布から正確度の補正係数を求める方法の実証実験を行う企画案があること、次年度以降の委員の追加と委員長について検討したことが報告された。

7) 利益相反委員会（通山 薫 委員長）

役員 COI 自己申告用書式の小修整を行ったこと、第 66 回学術集会で倫理委員会/利益相反委員会共催で「臨床検査医学研究を展開するために…知っておくべきこと、守るべきこと」を開催したこと、体外診断用医薬品の臨床性能試験ガイドライン検討に参加し協議に加わっていること、非医療関係者が演者になった場合の COI 申告の必要性についての問合せがあり協議し、自己申告が必要と回答したこと、企業の方が演者になる場合、「COI 無」と記すのは適切でなく、勤務先・雇用関係等を COI の一環として明示すると確認したことが報告された。

8) ガイドライン作成委員会（吉田 博 担当理事）

第 66 回学術集会における委員会企画としてテーマ「臨床検査のガイドライン 2018 の概要と活用法」で開催したこと、臨床検査のガイドライン JSLM2018 の WEB 閲覧について、今回は会員に対して ID とパスワードを付与して全ページ閲覧可能とするが、現在、準備中であること、ガイドライン作成委員の COI 開示について、日本医学会診療ガイドライン策定参加資格基準に則ることが報告された。

9) 広報委員会（木村 聡 担当理事）

第 66 回学術集会で臨床検査振興協議会と共同で LINE スタンプの宣伝ポスター掲示とビラの配布を行ったこと、ワークライフバランス委員会とともに学生 CPC を実施したこと、今後、若い人材獲得に SNS を通じた切れ目のない情報提供が重要と考え、検討していることが報告された。

10) 臨床検査室医療評価委員会（村上正巳 委員長）

ISO 15189 認定施設を対象として、施設の要員数、初回審査受審時の負担、内部監査員の養成に関する負担、ISO 15189 認定維持（更新）のための人員や費用に関する負担などを質問事項としたアンケート内容についてと、結果は集計して解析結果をホームページに掲載することが報告された。

11) 遺伝子委員会（東條尚子 庶務理事、村上正巳 本委員）

日本病理学会と合同でがんゲノム検査全般に関する指針策定 WG を設置して、がんゲノム検査全般に関する指針の原案の作成を目指して会合を毎月行っていること、「遺伝性乳がん・卵巣がん症候群における抗腫瘍薬に対するコンパニオン診断に関する要望書」案（複数の学会による共同要望書）に関する検討依頼について、遺伝子委員会の見解を答申したことが報告された。

そして、がんゲノム検査全般に関する指針策定に関する覚書（案）が提示され、承認された。

12) 医療安全委員会（吉田 博 担当理事）

第 66 回学術集会で、チーム医療委員会と共催で、医療安全講習会「パニック値を巡る諸問題と日本臨床検査医学会からの提言」を開催したこと、2020 年第 67 回学術集会での医療安全講習を検討し、各施設における課題となっている「医療法改正に伴う諸問題」を候補として引き続き検討すること、次期委員長について、協議したことが報告された。

13) チーム医療委員会（柴田綾子 担当理事）

第 66 回学術集会で委員会企画の「在宅医療における臨床検査の展開」をまた、医療安全委員会と共同して委員会企画「パニック値をめぐる諸問題と日本臨床検査医学会からの提言」を開催したこと、また、パニック値の運用に関する提言をまとめ終え、同学術集会で公表したことが報告された。

14) ワークライフバランス委員会（山田俊幸 担当理事）

第 66 回学術集会で、日本医師会、教育委員会、臨床検査専門医会教育研修委員会共催ワークショップ「臨床検査専門医の育成を考える」、グループワーク(RCPC challenge)、ポスター発表を企画、実施したこと、2020 年も、2019 年同様の活動内容を継続することが報告された。

3. 第 66 回学術集会報告（岡山 2019/11/21(木)～11/24(日)、通山 薫 会長）

2019 年 11 月 21 日（木）～24 日（日）岡山コンベンションセンター・岡山シティミュージアム（岡山）において、通山薫会長（川崎医大）のもと、テーマ「臨床検査からメッセージを発信しよう！」として開催され、次の報告、収支見込みが報告された。

- ・一般演題数：343 演題（口演 275；ポスター68）
- ・参加者数：合計 1,627 名（一般会員 1,007 名、非会員 457 名、大学院生 60 名、学部生 24 名、招待者 79 名）
- ・情報交換会：日時：11 月 23 日（土）19：15～21：00、会場：ホテルグランヴィア岡山、参加者数（有料 234 名、招待者約 60 名）

4. 第 67 回学術集会報告（岩手 2020/11/19(木)～11/22(日)、諏訪部章 会長）（東條尚子 庶務理事）

2020 年 11 月 19 日（木）～22 日（日）に、アイーナ（いわて県民情報交流センター：盛岡）において、諏訪部章会長（岩手医大）のもと、テーマ「人工知能（AI）時代の臨床検査」として開催予定であり、AI と臨床検査に関する情報集約と共有化、日本医療情報学会との共催シンポジウム、各科スペシャリストからの提言、一般演題は、他企画と重複しないよう原則ポスターとし、その中からトピックスとなるテーマを選定してミニシンポジウムを企画予定であること、最終日午後に、医療安全関連の講習会、ICD 講習会、その他の認定講習会等を企画していることが報告された。

5. 第 68 回日本臨床検査医学会学術集会報告（富山 2021/11/11(木)～11/14(日)）（東條尚子 庶務理事）

2021 年 11 月 11 日（木）～14 日（日）に、富山国際会議場、富山市民プラザにおいて、北島勲会長（富山大）ならびに、仁井見英樹副会長（富山大）のもと、臨床検査の学際的特徴を活かした企画を考えていることが報告された。

6. 本学会からの関連団体委員推薦について（更新）（矢富 裕 理事長）

前回、理事会 2019 年 10 月 18 日以降の当会からの派遣委員等について報告された。

- 1) 日本医師会「31 疑 1534」にかかる企業との日本臨床検査医学会の交渉窓口
2019/10/23 に吉田博先生を推薦。
- 2) 臨床検査振興協議会大規模災害対策委員会委員
2019/11/14 に坂本秀生先生が指名された。
- 3) 日本産婦人科学会着床前診断に関する倫理審議会委員（任期：2019/12/7～2020/12/6）
横崎典哉先生を推薦。

7. 会員マイページの進捗状況について（東條尚子 庶務理事）

2019 年 12 月 20 日（金）に、会員の登録情報確認と編集、年会費納入、名簿検索が可能となる会員マイページの運用開始を予定していたが、諸般の事情により延期すること、2020 年度の会費納入をマイページの運用開始前に希望する場合は、従来の郵便局の払込取扱票（青色）での対応を会員にメールでお願いしたことが報告された。

8. 日本専門医機構基本領域連絡委員会（プログラム、認定・更新）報告（山田俊幸 専門医担当理事）

日本専門医機構基本領域連絡委員会（プログラム、認定・更新）での報告が下記の通りなされた。

- ①カリキュラム制研修の整備基準のフォーマットを作成し、日本専門医機構に提出すること。
- ②ダブルボードの検討について、見込まれる領域と検討することになっているが、当会は、病理とのダブルボードが考えられる。今後、検討していくこと。
- ③基本領域の診療実績の証明の免除について、当会は 3 回以上更新した場合、65 歳以上の場合は免除しているが、こういった場合は、診療従事証明書等の提出を検討すること。
- ④日本専門医機構専門医の認定試験は 2021 年から開始することが確認されたこと。
- ⑤専門研修プログラムのサイトビジットの検討が必要となったこと。
- ⑥日本専門医機構での e-learning の進行状況。

9. 日本臨床検査同学院報告（東條尚子 庶務理事）

内閣府への遺伝子分析科学認定士試験、POCT 測定認定士試験の公益事業追加申請については、内閣府からの照会に対応しており、認可に備えて規定を作成している。

2019 年一級臨床検査士資格認定試験の試験結果、2020 年二級、緊急臨床検査士資格認定試験の予定、11 月 22 日（金）に、第 66 回学術集会で共催シンポジウム「臨床検査技師のキャリア形成」を、11 月 30 日（土）に、小方富雄賞の贈呈式、記念講演会を学士会館で開催したことが報告された。

10. 臨床検査振興協議会報告（矢富 裕 臨床検査振興協議会理事長）

法人化を進めていること、日本臨床検査薬協会からの提案により大規模災害対策委員会を設置したことが報告された。

11. その他

・日本医学会用語委員会（東條尚子 本用語委員）

日本医学会用語委員会遺伝学用語改定に関するワーキンググループ報告の「顕性遺伝（優性遺伝）」「潜性遺伝（劣性遺伝）」とすることについて、今後、各学会の意見を求められる旨が報告された。

・「基準範囲」に関わる用語についての検討ワーキンググループ（村上正巳 本委員）

ワーキンググループ報告「基準範囲」に関わる用語について、ワーキンググループの報告書作成に至る経過と結論を臨床病理 67 巻 12 号に掲載することが報告された。

Ⅲ 審議事項

1. 編集委員会・学術推進化委員会 委員について（矢富 裕 理事長）

2020・2021 年度からの委員長、委員の交代が諮られ、承認された。

2. 臨床検査管理医認定更新制度規定の一部改定について（矢富 裕 理事長）

臨床検査管理医更新単位として、学術集会または特別例会の参加単位を、学術集会 1 回分の e-learning 受講で振り返ることが可能とする改定案が提示され、承認された。

3. 学術集会企画委員会の協議結果について（矢富 裕 理事長）

・運営事務局について

学術集会の運営事務局は、2018 年度から 3 年間固定したが、特段のメリットを実感できなかったため、2021 年度からは、従来の学術集会長が選定する方法に戻ることが提案され、承認された。

・講演謝礼・交通宿泊費の目安（案）について

講演謝礼の目安が示され、学術集会長の裁量にもよるが、目安として承認された。

・演題登録システムについて

会員マイページを依頼した会社でのシステムに演題登録システムもあり、会員データとも連携ができるため、このシステムを利用する提案があり、承認された。

4. 評議員の再任について（2020/01/01 付）（矢富 裕 理事長）

2020 年 1 月 1 日付での評議員再任対象者 36 名について、33 名から申請書類が提出され、31 名は再任単位を満たしており承認された。2 名については、再任の必須である社員総会への出席を満たしていないため、また、未提出の 1 名は当該支部長から再任単位を満たしていないという連絡があったため、再任は認められないため正会員となる。2 名からは辞退の連絡があったため辞退を認めた。以上、評議員審査委員会での審査結果が報告され、承認された。

5. 社員総会の資料送付、出欠、議決権行使、委任状についての提案（矢富 裕 理事長）

社員総会の資料送付、出欠、議決権行使、委任状については、現在、封書で送付し葉書での回答で対応しているが、経費がかかること、また、短期間でまとめなければならず作業量も膨大なため、資料は web 上での閲覧とし、出欠、議決権行使、委任についても、セキュリティーのある web 上でのアンケート形式で回答を行う方法が提案され、承認された。

6. 「体外診断用医薬品の臨床性能試験ガイドライン検討」について（矢富 裕 理事長、古川泰司 倫理担当理事）
当初、日本臨床検査薬協会法規委員会より当学会には、本ガイドライン監修の要望がなされていたが、研究開発振興課の意見を踏まえて医療機器審査課との話し合いで GCP 制定に向けた検討が開始されており、当学会としてのパブリックコメントを依頼したいとの申し入れがあったことが報告された。その場合は本件を受諾すること、また、担当を倫理委員会とすることが承認された。なお、本件については、複数の委員会が関与する WG が必要となる可能性があり、その場合は、倫理委員会より提案いただくことが了承された。

7. 日本専門医機構への貸付金の延長依頼について（3年間）（矢富 裕 理事長）
日本専門医機構は、基本領域学会等より、会員数に応じた金額を借り入れしており、契約していた3年間が経過する。経済状況が回復しないため、日本専門医機構より引き続き3年間借り入れ延長の申し入れがあったことが報告され、承認された。

8. ホームページ更新担当者への謝礼について（矢富 裕 理事長）
当会ホームページの更新を依頼している方が、安価で対応しているため、一年間の謝礼をする提案がなされたが、そういった契約はないため、あらためて検討することとなった。

9. その他（東條尚子 庶務理事）
・2020年度理事会、定時社員総会日程（於 学士会館）については、下記の通りの予定であることが報告された。
2020年度第1回 理事会（現理事・監事）：2020年3月28日（土）11：00～13：00
2019年度に係わる定時社員総会： // 13：00～14：30
2020年度 第1回理事会（新理事・監事）： // 14：30～14：45
定時社員総会： // 14：45～15：00
2020年度 第1回理事会（新理事・監事）： // 15：00～16：00
新旧理事・監事の懇親会： // 16：00～17：00

VI 閉会の挨拶（山田俊幸 副理事長）
閉会の挨拶があり第4回理事会は閉会された。

以上の決議を明確にするため、この議事録を作成し、出席理事長、副理事長及び監事がこれに記名押印する。

2020年2月19日

一般社団法人 日本臨床検査医学会 理事会

議長 理事長 矢 富 裕

副理事長 山 田 俊 幸

監 事 高 木 康

監 事 福 武 勝 幸